



発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

2014年(平成26年)

3月13日

(木曜日)

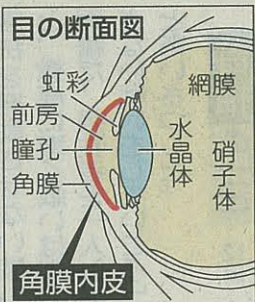
角膜内皮細胞を培養

滋賀医大など 移植手術に初成功

目の角膜が濁り、視力が低下する水疱性角膜症の患者に、体外で培養した角膜

内皮の細胞を移植する手術に、京都府立医大と滋賀医大などのグループが、世界で初めて成功した。三人に移植し、いずれも視力が回復した。京都府立医大が十一日、発表した。

内皮の細胞を移植する手術に、京都府立医大と滋賀医大などのグループが、世界で初めて成功した。三人に移植し、いずれも視力が回復した。京都府立医大が十一日、発表した。



植する今回の手術が定着すれば、角膜不足を補える。

京都府立医大の木下茂教授(眼科学)らは、米国から取り寄せたヒトの角膜から角膜内皮細胞を取り出し、三種類の化合物を使うことで培養。約十倍に増やすことに成功した。

サルに移植し、安全性などを確認した後、三人の移植手術を実施。いずれも〇・〇五〜〇・〇六だった視力が〇・一〜〇・九に回復した。

木下教授らの培養法で、細胞は数年以内には、二百〜三百倍に増やすことが可能という。今後二年間で三十人に移植手術を行い、有効性を確認する。

移植は、高齢者より若い人から提供された細胞の方が、移植後も安定するといいい、木下教授は「若いドナーの細胞を増やし、移植できる効果もある」と話している。